

2019  
5・20 月4回  
月曜日発行  
第1102号

# 週刊ビル経営

発行所 (株)ビル経営研究所  
〒104-0061  
東京都中央区銀座7-17-12 2F  
TEL 03 (3543) 7421  
FAX 03 (3543) 5839  
発行人 垂澤清三  
年間購読料25,000円(税別)  
KAMEOKA NEWS AGENCY CORPS  
亀岡大郎取材班グループ

## ソーコに学ぶ ビル経営



イーソーコ総合研究所  
代表取締役 出村 亜希子  
奈良女子大学大学院修了後CM  
会社を経て現職。一級建築士、  
宅建士。「倉庫ドクター」とし  
て建築面からオーナー支援に取り  
組む。

容れないで、物流とのシナジー  
矛盾と絶たない。無限の可能性を秘め  
えず対峙するもの。そのような複合提案  
である。そのような複合提案  
ができて、イノベーション  
という哲学を起させる物流不動  
産。勝一朗の「倉庫ドクター」の動き  
から、勝一朗の「倉庫ドクター」の動き  
文芸評論家・亀井 里子。ひとりひと  
り、勝一朗の「倉庫ドクター」の動き  
「割り切り」が、そのまま業界を創  
りとは、そのまま業界を創  
魂の弱さ。そんな面白さもま  
である。そんな面白さもま  
という言。まだまだ残っています。

令和改元にもなう 葉を思い出します。

10連休となった今年の ゴールデンウィーク。私たちが倉庫ドクタ  
金沢市にある「鈴木大 供するなかでも、常に  
拙館」を訪ねました。 課題と直面します。ピ  
2011年10月に開 ストラクチャを相手に ビジネスサロン」の設  
来た建築関係者が一度 する私たちのサービス 立に向けた準備が進ん  
は訪れる施設。

建築家・谷口吉 科学的というか、 サロンは、プレイヤ  
生が設計した建 実証的であれば ー同士の情報交換、交  
物は優れた現代 なりません。しか 流を深めるとともに、  
建築のひとつと して評価され、 研究・勉強会を通して  
して評価され、 木大拙の足跡と 物流不動産ユーザーリ  
木大拙の足跡と 研究を振り返る 互にサポートし合うコ  
展示施設である ともに、大拙 の「場」だけではな  
の思想に触れる る。安易に割り切 コミュニティを構築し  
思索の場でもあ らず、常にその矛 ます。24時間、プレイ  
ります。館内は 盾を保持してより ヤーの間をさまざまな情  
得も言われぬ良 報が常に飛び交い、そ  
い空気が流れ、 めたいとの想いを のなから物流不動産  
特に「思索空間」 新たにしました。 を軸とした新しいスタ  
と「水鏡の庭」の 静寂 私たちが業界を創る イルのビジネスがどん  
はまさに大拙の説く うと取り組む「物流不 どん生まれていく。そ  
「無」の精神性を感じ 動産ビジネス」も、新 んな「場」を目指して  
させるものでした。 たな道を切り拓くもの います。

### 第13回「情報と思索のプラットフォーム」

大拙の思想に触れた 筆者はその説くところ 庫・物流施設)に關連 ないかもしれません  
知りたくなり、大拙の ロジックを掛け合わせた 報と思索のプラットフ  
著書を読んでみまし ビジネスで、不動産を オーム」を創っていく  
た。私たちの日常は相 扱われる皆様にとっ つもりです。